

令和6年度第4回田村市公共交通活性化協議会議事概要

日時	令和7年3月12日（水） 午前10時30分～11時25分
場所	田村市役所 301会議室
報告事項	(1) 福島交通路線バス「船引線」について
協議事項	(1) 田村市における今後の自動運転事業について (2) 令和6年度田村市公共交通活性化協議会歳入歳出補正予算（案）について (3) 令和7年度田村市公共交通活性化協議会事業計画（案）について (4) 令和7年度田村市公共交通活性化協議会歳入歳出予算（案）について
概要	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 福島交通路線バス「船引線」について 事務局より説明 質疑応答なし</p> <p>4 協議</p> <p>(1) 田村市における今後の自動運転事業について 事務局より説明 質疑応答</p> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 協力事業者等の拡大という事業方針について、具体的なイメージは。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運行面については、福島交通、東部自動車、ほていやタクシーに引き続き協力頂きたいと考えている。新たに追加する事業者のイメージとしては、運行ルート上の商業施設や医療機関などであり、連携を図っていきたい。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市外企業だけではなく、地域経済に裨益する形が望ましい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 車両価格も高騰しており、1億円程度かかるため、車両の選定には十分注意を払い検討したい。報道でもあったとおり、日産自動車が横浜市でワゴン車での自動運転実証を行っている。国産車であれば、地元企業からの購入や整備等も可能と考える。令和9年度からのL4実装までの期間に、よく調査・検討を行い、なるべく地元に貢献できる自動運事業としたい。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 車両が1億円となると、メンテナンス（ランニング）費用は何円くらいとなるか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 概算で約6,000万円である。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国庫補助はどの程度受けられるのか。

(事務局)

- 最大で5年間である。
→異議なし。承認

(2) 令和6年度田村市公共交通活性化協議会歳入歳出補正予算(案)について

事務局より説明
質疑応答なし

(3) 令和7年度田村市公共交通活性化協議会事業計画(案)について

事務局より説明
質疑応答

(委員)

- 船引線以外の他路線について見直しは。

(事務局)

- 各路線のうち、利用者が少ない路線から見直しを検討していきたい。例えば葛尾線や川内線は市内で完結している路線ではないため、自治体間で協議しながら検討を進め、利用者に不便の無いようにしたい。

(委員)

- バス路線の廃線にあたり、らくらくタクシーなど代替手段の充実を図っていただきたい。

(委員)

- らくらくタクシー利用者がまだまだ少ないため、老人クラブの各種大会(輪投げ大会、ディスクゴルフ大会等)時にパンフレットを配布できるように増刷等の対応をお願いしたい。

(事務局)

- ご高齢者が集まる場所に設置できるように増刷対応をしたい。らくらくタクシーの利用者数も横ばいとなってきたことから、利用者数を増やせるようにしていきたい。

(委員)

- 公共ライドシェアの導入検討の想定は。

(事務局)

- 都路地域での実施を検討しており、4～5月には診療所バスの件と合わせてアンケート調査を行いたい。
- また、公共ライドシェアを担うNPO法人を探しているため、情報があれば是非ご協力いただきたい。

(4) 令和7年度田村市公共交通活性化協議会歳入歳出予算(案)について

事務局より説明
質疑応答

(委員)

- 計画策定費は外注となるか。また、事業者は決まっているか。

(事務局)

- 委託をする予定である。今後事業者を選定する。

(委員)

- 人件費や燃料費の高騰が続いており、次年度以降の予算編成時には考慮いただきたい。

5 その他

福島運輸支局 黒田首席運輸企画専門官より「公共交通空白への今後の取組みについて」に基づき、国の動向の説明をいただいた。

(委員)

- 自動運転バスは補助金がなくなった後、どのように考えているか。

(事務局)

- あくまで現時点で実施する場合の想定の説明をしたところであり、導入前に、今後のランニングコスト等の課題もクリアした上での実施となる。自動運転を実施できる環境の整備を行いながら、費用対効果やまちづくりの観点も含めて皆様の意見を伺いながら決めていく予定である。

(委員)

- 検討の結果、自動運転事業をやらないこともあるのか。

(事務局)

- 認識のとおりである。

(委員)

- 三春町では今年度共創モデル実証事業に取り組み、公共交通の再編に取り組んだ。自治体の限られた財源ではすべてを実施することは出来ないので、国の支援も活用しながら進めていただきたい。事業者としても協力させていただく。

(委員)

- 「公共交通空白への今後の取組みについて」の説明内容を聞いたが、地方でも対応できるような支援を用意していただきたい。

(委員)

- 都市部に対する支援が多い中、運行事業者すら無い地域への支援として、公共ライドシェアの支援メニューが追加されたところ。地方でも活用できるよう伴走支援していきたい。

(委員)

- 国の交通空白の定義は。

(委員)

- これまでと変わらないが、鉄道駅2キロ以内、バス停1キロ以内、タクシー30分以内など。現状自治体向けにリストアップを依頼しており、自治体として交通空白と認識しているエリアについても、支援の対象としていく考えである。

(委員)

- 自動運転やらくらくタクシーの組み合わせで市民の日常生活の足を確保していきたい。

6 閉会